甘楽町広報

昭和39年5月15日　（毎月15日発行）　第54号【1頁】

発行所　群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡甲852　甘楽町役場　電話（小幡）4番・44番・49番
編集　総務財政課　企画文書係
印刷所　坂本印刷株式会社

5月1日の人口と世帯

世帯数	2,684戸
男	6,973
女	7,319
計	14,292

千歳橋完成

梅の木平地内の千歳橋が5月8日に完成しました。

橋の長さ十一・四メートル、幅三・六メートルで、総工費一三六万五千円を投じてできたものです。

悔いのない一票を書く胸を張れ

公明選挙の標語

入選者は大塚さんほか九名

明るく正しい選挙を行なうために、このほど町の選挙管理委員会（鈴木柳一郎委員長）同公明選挙推進協議会（山口京三郎会長）では、広く町内一般みなさんと、児童生徒から「標語」を募集しました。

その結果、一般から五十二点、児童生徒から四百七十五点（第一中学三百一点、第三中学二十二点、新屋小学校四十六点、福島小学校六十九点、小幡小学校十八点、秋畑小学校十九点）もの多くの応募をいただき、慎重に選考した結果、次の標語が入選しました。

ご協力いただきましたみなさんには、心から感謝申し上げ、この標語が今後行なわれる諸選挙のいしずえとなって明るい正しい選挙で、立派な代表者がえらばれるように大きな期待をかけています。

一般の部

一等　悔いのない一票を書く胸を張れ　（白倉・大塚英雄）

二等　このえがお公明選挙が生んだ顔　（小幡・吉田幸子）

三等　この一票みんなのしあわせきずく票　（小幡・佐藤きく）

三等　公選に義理人情は忘れましょう　（福島・山田ゆう希）

三等　この一票清く投じて町づくり　（小幡・松尾イセ）

児童生徒の部

一等　この一票町を明るく美しく　（一中二年、堀口通夫）

二等　この一票明るい社会へかける橋　（一中二年、間島和夫）

三等　正しい選挙できれいな町を　（秋小六年、飯塚初江）

三等　みんなにこにこ公明選挙　（福小六年、横山孝一）

三等　一票で正しく生かそう自分の意見　（三中三年、中野公枝）

写真は標語選考中

英霊よ安らかに

あわい春の霞の中に、うすみどりの若葉がはえる4月25日、中央公民館で甘楽町の戦没者五六四柱のみたまを祭る慰霊祭が、遺族や来賓者約五〇〇名の参列したなかで、おごそかに行なわれました。

戦後十九年、新しい日本のめまぐるしい進歩とともに、遺家族の人たちも多くの困難を克服しながら、それぞれに努力された姿は、まことにとうといものがあります。

きつといまは、靖国の英霊たちも、ひたすらわが町、わが家族の繁栄を祈りながら、安らかにねむりつづけることでありましよう。

国旗は民族の象徴

祝祭日には必ず掲げよう

白地に赤い日の丸をおいた日章旗がへんぽんとひるがえるさまは、美しい民族の象徴として気高く感じます。

国旗は世界の国々にからも、その国の権威ある象徴と認められるもので、その国に生活する民族を代表し、国家を代表する「しるし」です。

私たちは日常祝日、祭典などには、この「国旗」を各戸にかかげ、日本人として誇りとよろこびをかみしめたいものです。ことしは、甘楽町の各学校でも、元旦以降日曜日を除いて、毎日国旗を掲揚することになつています。

これは、日本人としての自覚の上に立つて、毎日の行動がとれるように期待しているためです。

とくに最近の県議会では、各官公署などは毎日日の丸をかかげるよう決議が行なわれているし、オリンピックも行なわれる年でもあるので、これを契機として、いままで以上に国旗をかかげる機運を高めたいものです。

農協本部

五月から店開き

町内三つの農業協同組合が合併して発足した甘楽町農業協同組合（黒沢潤次郎組合長）の本部事務所が、5月1日から小幡小学校の教室を借りて、店開きしました。

この本部事務所には、組合長以下十名の職員が農協の総括的な仕事にたずさわり、直接組合員に関係する仕事は各事業所で行ない、組合員に不便のかからないようになつています。

さけよう交通事故

子どもにはひと声かけて

年間を通じてあらゆる運動が数多く行なわれていますが交通事故をなくす運動ほどしんけんに、積極的に行なわれているものはないように思います。これは警察官という専門家がいるためではありません。正しい交通ができなければ、私たちの生命をうばう恐ろしい事故を起こすことになりますから本気なのです。

いのちは、いちどなくせばもう二度と返らないのです。それだけに、私たちは、いつでも自分のいのち、他人のいのちをたいせつにするよう考え、不注意がもとでいのちをなくすようなこと、傷害を起すようなことをしてはならないのです。

とりわけ交通事故による死亡や傷害は、交通規則を守らなかつたり、不注意がもとで起きるのがほとんどです。なかでも、小さな、こどもさんは、注意力がうすいため、遊びにむちゅうになつていて、思わぬ事故を起こすことが多いのです。学校や家庭はもちろん、おとなたち全部が危険なことどもさんを見たら、わかりやすく注意を与え、身の安全を守つてあげたいものです

私の町政

（問）

毎年二回、道路愛護週間の道路補修奉仕が行なわれるが、勤め人がたくさんいるので、こんどからは、日曜日に行なうよう計画して下さい。多くの勤め人が、それを希望しているようです。また、ほとんどの地区が、奉仕に出られない人からは、それに見合うお金をとることになつているようですが、これは、お金ですむ問題ではないと思います

道路清掃について

（答）

たいへん建設的なご意見をいただきありがたく思います。

道路愛護作業は、この奉仕を通じて、日常私たちが利用する道路を良くし、道路をたいせつにする心を養成し、奉仕を通じて道路をよくし、道路をたいじにする精神がつちかわれるものと思います。（一勤労者）

なう上に、大きな効果があるものと思います。

県では、市町村と相談して、この奉仕をしてくださる住民の方がたに、作業現場で直接感謝申し上げるために計画をたて、日割りをして、一斉に愛護作業をしていただいていたわけですが、あなたのご意見はごもつともと思います。

今後は、区長さんのご意見をよくお聞きして、なるべく多くの住民が都合のよい日に行なつていただくよう、努めたいと思います。

（産業建設課）

忠霊塔に桜植える

郷友会、遺族会の奉仕で

小幡地区の郷友会、遺族会員らが、4月14日、小幡忠霊塔広場に八重桜五十本（三年木）を植えました。

この八重桜は、東京の大日本精化工業社長、高橋義博さん（小幡出身）の寄贈によるもので、同時に贈られた吉野桜五十本は、町通りの堀ぞいに地区の人たちが奉仕して植えられています。

将来、この奇特な高橋さんがますますご発展なさるのに平行して桜の木も育ち、見ごとな花を見せることでしよう。

写真上は桜をうえる会員たち

佐藤伊三郎翁

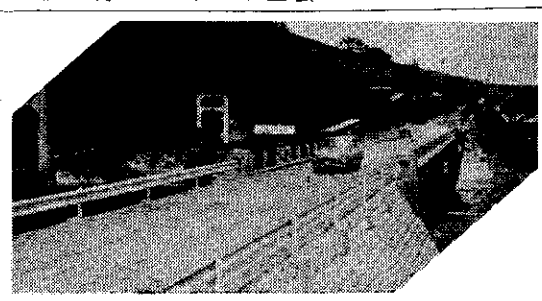
老衰のため死去

甘楽町の有功者として尊敬されていた佐藤伊三郎翁（八十八才、秋畑）が老衰のため、5月4日自宅でなくなりました。

翁は若いころから人にすぐれ、人望厚かつた人で、大正7年4月秋畑村伝染病委員をはじめとして、同村第二区長代理二期、同区長二期、同村議会議員二期をつとめ、二十年間の長期にわたり、村政に尽されました。村ではこの功績を高く評価し、昭和13年4月同村の有功者として表彰しました。これが合併と同時に甘楽町の有功者として引き継がれたわけで、本町にとつては貴重な存在だつただけに、その死去が惜しまれてなりません。

塩畑堂橋が完成

五月十八日に完工式



甘楽町の白倉地内と富岡市の後賀地内をむすぶ塩畑堂橋が完成し、5月18日に完工式が行なわれます。

ここは、いままでつり橋がかけられ、この附近の交通に大きな役割りをはたしていました。しかし、いたみがはげしくなつたこと、幅がせまく最近自動車の大型化と交通量の増加にたえられなくなつたことなどの理由で、このつり橋と平行して、昭和37年1月から架け替えが行なわれていました。

新しい塩畑堂橋は、最も新しい設計によるコンクリートの永久橋で、総工費は四千二百万円、長さ一一四メートル幅六メートルのみごとなものです。

タバコは町内で買いましよう。一本のタバコで三十九銭の消費税が町にはいります。

富岡～来波間のバスの運行は、六月一日から那須板穴地区まで延長になります。